



Vol.44

### ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた  
本田優子(札幌大学副学長)と  
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、  
その魅力をソノコ(=お便り)形式で  
語り合います。

イラスト/安田千夏

### ヤイサマ(抒情歌)



自称、歌って踊れる学芸員。上手  
い下手は置いといて、リムセ(踊り)

やウポボ(歌)が大きく好き。数あるアイヌの  
歌謡の中で私が唯一、独りで歌える歌が一曲  
だけあるの。白老の野本イツコさんが歌っ  
たヤイサマ。

♪ヤイサマネナ ヤイサマネナ クコロオヘ  
レポクトウレシポ タナントオッタ クトウレ  
シポ ネブモンライケ エキコロアンルウエ  
……♪ (ヤイサマネナ 私のかわいい娘  
恋人よ 今日どんな仕事をしているんだ  
ろ……)

と、遠く離れている恋人を思い歌ったもの。  
明治二十五年生まれのイツコさんのヤイ  
サマは直接聴いたことがないので、私の歌の



師匠はカセットデッキから流れる歌。三十  
年も前ですが、朝から晩まで何度も何度も  
聴いて、聴こえるように歌真似をして覚え  
たの。イツコさんのヤイサマはキングレコー  
ドから出された百枚組CD『世界民族音  
楽大集成 3 アイヌの歌と踊り』に収録さ  
れているので機会があったら聴いてみて。

「ヤイサマネナ ヤイサマネナ」という折り  
返しの詞をもつて歌われるヤイサマは「自  
分の心を述べる」という意味の言葉。即興  
歌や抒情歌、哀傷歌などと訳されてしまし  
た。自分でつくるメロディーに、その時々  
の思いを詩にして自らが歌うもの。今でいう  
シンガーソングライターですよね。他にも私  
の歌うヤイサマのように、特に歌詞や節の  
良い、心に残るものは何人にも歌い継がれ  
てきたものもありますよ。

優子さん、思い出に残っているヤ  
イサマってありますか？



ヤイサマの中でも、特に  
ヤイカテカラとかイヨハイ  
オチシって呼ばれる恋の歌。その中  
に出てくる「チカブタクネレラタ  
クネ(鳥になりたい、風になリた  
い)」というフレーズが、とりわけ好  
きですね。いろんなバリエーション  
があるけど、たとえば「鳥になリた

い、風になリたい。そうしたら今すぐに、恋  
しい人のところへ飛んで行く。そして、その  
上を飛びながら二つの清らかな涙、三つの  
清らかな涙を降らせるの。けれど風にも鳥  
にもなれない私。ああ愛しいあの人に会  
いたい」という感じの歌詞に、心惹かれま  
す。かつてのアイヌの女性たちは、泣きなが  
ら、こんな恋歌を歌っていたんですって。な  
んてロマンチック。



とところで、イヨハイオチシには、恋歌だけ  
じゃなく悲しい歌も含まれるの。私がい  
に聴いたことがあるのは、平取在住のフチ  
(おばあさん)が、自分の息子さんを亡くさ  
れた時の苦しさや切なさをすべてアイヌ語  
で歌ったもの。息子さんが亡くなったのは  
もうはるか昔のことなのに、まるで昨日の  
ことのようにポロポロ涙を流し、身をよじっ  
て歌われる姿に、聴いている  
こちらまで胸が締め付けら  
れ、涙がこぼれました。  
その他にも、楽しいお酒  
の席で、湧き上がる笑い声  
とともに始まったヤイサマ、  
穀物を穂摘みしながらフチ  
たちが口ずさんでいたヤイ  
サマ…ヤイサマには、アイヌ  
の人たちのそれぞれの人生  
が刻まれてるよね。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。  
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。  
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。